



「臥竜鳳雛」



*タイトルの意味は？調べてみよう

2020・1・21 第16号

学年主任 森本 聡一郎

1. 「阪神・淡路大震災25年に寄せて」

1月17日は6434名の震災被害者の御霊に祈りを捧げる日です。あの日から25年を迎えました。17日には本校でも追悼行事を行いました。震災当時、私は福知山市の高校に勤務しており、直接的な被害はありませんでしたが大きな揺れは忘れることができません。早朝の5時46分に起きたマグニチュード7.3の大地震。2階の部屋で寝ていた私は、尋常でない大きな揺れに家が倒壊するのではと本気で恐怖を感じました。その揺れは20秒ほど続いたと思います。すぐに1階に降りて食器棚等を確認しましたが大きな被害はなく、安心したものです。そして、いつも通り7時15分に学校に到着し、すぐに体育教官室のテレビをつけました。当然、どのチャンネルも地震関連のニュースばかり。阪神高速道路が崩壊している光景には驚かされました。8時半ごろ、JRが運休等の理由で学校が休校になり、少しラッキーと思っていた自分を恥ずかしく思います。10時ごろには各テレビ局がヘリコプターを飛ばし、上空から被害の様子を生中継し始めました。それでも死者数は300人とか400人の報道でしたが、午後に入り被害の惨状が赤裸々になってきます。死者の数は2000人とか3000人に増え始めました。

大学卒業後、神戸の会社に就職した私は2年間のサラリーマン生活を神戸で過ごしました。自宅は神戸市兵庫区上沢通5丁目。会社は JR 新長田駅近くにありました。2年間の短い期間ではありましたが、慣れ親しんだ町が炎に包まれていく光景にテレビの前で釘づけになり、すぐに会社の元同僚に連絡をしました。しかし、当時は携帯電話も普及していなかった時代で、電話は通じません。ホームセンターで飲料水を購入し、神戸市垂水区舞子にある元同僚のマンションに辿り着いたのは、その2日後でした。被害の少なかった舞子周辺でも、マンションの入口に30cmほど段差ができていました。

あれから25年。キミたちはまだ生まれていない時代の出来事。当然、記憶にはないことですが親や親戚の方々から当時の話を聞いた人もいるでしょう。私たちにできることを考え、6434名の震災被害者のご冥福を祈りましょう。今の自分が幸せと感ぜられない人は、いつになっても幸せを感じる人にはなれない気がします。

死者	6434名
行方不明者	3名
負傷者	43792名



2. 「学習習慣の見直しと基礎固め」 今のうちにヌケ・モレを埋めていこう

進級前のこの時期は、毎日の学習習慣の見直しと、国数英の基礎を固めることが大切です。2年生になると、理科、地歴の学習が本格化して今まで以上に勉強することが増えるので、国数英でヌケ・モレがあるとついていけなくなる可能性があります。特に学習習慣が定着しておらず、勉強に不安がある人は4月当初の気持ちを思い出し、「これからの頑張りで十分実現できる」「諦めるのは早すぎる」と前向きな気持ちで授業に取り組むことが大切になります。

前向きな気持ちで授業に取り組むためには何が大切でしょうか？それは「クラスの雰囲気」です。例えば、「提出物の期限を守る」とか「授業開始の挨拶を大切に」「教室の美化や清掃」などが考えられるでしょう。でも、私が一番期待するのは『朝の小テスト』です。4月当初から口を酸っぱくして言ってきた「全員合格」。これこそが「クラスの雰囲気」が反映されるべき典型と私は考えます。誰かのために自分も努力する。残されるチャンスは4～5回です。74回生の心の実力を見せてください。信じていますよ。



学年末考査まであと29日。最後まで諦めない！

3. 「私の恩師 No.4」 2組担任 沖守 春樹

私の恩師は高校時代のラグビー部顧問の先生です。

ラグビー部では理不尽を感じる事が多々ありました。

高校1年の時、総体で強豪校である報徳と対戦。タックルにいくも止められず、プレー中断の際に3年生の先輩に顔面に愛の鉄拳をいただいたこと。

また、過酷な練習ゆえに、様々な理由をつけて部活を辞めようとする同級生を辞めないように説得するよう求められたことがありました。結局、8人いた同級生は私を含め3人に減りました。同級生の退部を止められなかった私たちは、連帯責任として新開地駅にある激安の散髪屋でみんな仲良く頭を丸めました（数人の後輩は、「先輩がやるなら」と一緒に頭にバリカンを走らせました）。

さらには、合宿において、練習姿勢が良くない後輩の責任を、15人を超える後輩全員の前で叱責されました。「上級生としてどう責任を取るのか。」難しい問いでした。朝から晩まで練習した後のクタクタとなった夜のミーティングで、私たち上級生3人は各々の宣言をしました。

このような自分で考え、行動する機会を恩師は作って下さいました。まだまだ沢山の思い出があります。これらの経験から、「あまり何事にも動じなくなったこと」、「ラグビー部の仲間と今お酒が飲めること」など多くの人生の財産を得ることができました。

